

単元	骨格がしっかりとした英文を書くための表現 Lesson 11~Lesson 15
----	--

配当時間 ( 10 ) 時間      英語 Writing      教諭

**生徒の実態**

理型、習熟度上位のクラスだが、理系科目でクラス分けをしているため、A層とC層の学力差、英語学習に対するモチベーションの差が大きい。予習、課題については90%以上が定着している。A層の自主的に発表し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢は高い。C層は文法・表現の基礎事項を重視してほしいという気持ちが高い。授業中の集中力に課題を抱える生徒が数名いる。基礎力、モチベーションの差が、授業に取り組む姿勢、日頃の小テスト、再テスト、課題への取り組みの状況、定期考査の成績にはっきりと表れている。Group Work や自由英作文に取り組む姿勢は概して意欲的である。

次  
目  
標  
  
学  
習  
内  
容  
  
手  
だ  
て  
(**全体・A層・C層**)

**形容詞相当語の運用**  
Lesson 11-Lesson 12

①名詞を修飾する分詞  
②主語を説明する分詞 (S+V+C)  
③目的語を説明する分詞 (S+V+O+C)  
について理解を深め、表現力、運用能力を高める。

表現: 報告 Let me tell you about report on, make a report on, according to  
表現: I'm afraid, I regret to say that, I'm sorry, but  
動詞を-ing形, p.p.にして、名詞を修飾、補語を作る。  
① Do you know the boy wounded in the accident?  
②The news sounded exciting.  
③I had my father fix my bike.  
配当時間 ( 4 ) 時間

① 既習事項との関連を重視し、C層が理解できる説明を工夫する。(全体・C層)  
② Oral Compositionによって理解度を確認し、必要に応じて補足説明をする。(全体)  
③ Presentationで、より長い文を書く意欲を高める。(A層・全体)  
④ 表現は適切な situation を設定して身につけさせる。(全体)  
⑤ S+V 感覚、英文の骨格を意識させてしっかりとした英文を作る姿勢を養う。(全体)

**名詞相当語の運用**  
Lesson 13-Lesson 14

目的語、補語を作る方法の理解と習得を図る。  
(S+V+O, S+V+C, S+V+, O+C)  
現在分詞、過去分詞の使い分けの習得を図る。

表現: 依頼 I'd like you to, Would you--?, Would you mind--? I wonder if you can--.  
表現: 同意 agree, disagree, I'm in favor of, It is good to  
動詞・肯定、否定文、疑問文を利用して、目的語・補語を作る。  
①I want to know if we will have enough time.  
②I think it difficult to get to school in time.  
配当時間 ( 4 ) 時間

① 既習事項との関連を重視し、C層が理解できる説明を工夫する。(全体・C層)  
② Oral Compositionによって理解度を確認し、必要に応じて補足説明をする。(全体)  
③ Presentationで、より長い文を書く意欲を高める。(A層・全体)  
④ 表現は適切な situation を設定して身につけさせる。(全体)  
⑤ S+V 感覚、英文の骨格を意識させてしっかりとした英文を作る姿勢を養う。(全体)

**否定語の理解と運用**  
Lesson 15

否定語 few, little, hardly, scarcely, neither, not-without-ing, not --- without-ing, not A but B, not A but B の表現を理解し、運用能力を高める。

表現: 謝罪 I'm sorry, apologize for-ing  
様々な否定表現を駆使して英文を作る。  
① few, little  
② hardly, scarcely  
③ seldom, rarely  
④ not A but B  
⑤ neither A nor B  
⑥ 部分否定、2重否定  
配当時間 ( 2 ) 時間

① 既習事項との関連を重視し、C層が理解できる説明を工夫する。(全体・C層)  
② Oral Compositionによって理解度を確認し、必要に応じて補足説明をする。(全体)  
③ Presentationで、より長い文を書く意欲を高める。(A層・全体)  
④ 表現は適切な situation を設定して身につけさせる。(全体)  
⑤ S+V 感覚、英文の骨格を意識させてしっかりとした英文を作る姿勢を養う。(全体)

**生徒のゴール像**

既習事項を十分活用して理解を図り、Feedback を重視して補足説明を行う。理解に基づいて、Oral composition, 基本文の暗唱を徹底することにより、骨格がしっかりとした英文を自信を持って書く姿勢、及び能力を身につけることができる。

[手だて・工夫の有効性]

① 説明の工夫  
1 2 3 ④

---

② 理解力をつける工夫  
1 2 3 ④

---

③ 意欲を高める工夫  
1 2 ③ 4

---

④ 表現力をつける工夫  
1 2 3 ④

---


⑤ 英作文力をつける工夫  
1 2 3 ④

**次の単元・年度に向けて留意点**

時間をかけて添削し、毎時間、2~3名発表させるなど、自由英作文、Presentation に取り組む意欲を高める工夫をする。


【授業シート】 1

◎授業者 [職名・氏名 教諭・ ] ◎実施日・校時 [平成21年10月 日 ( ) ・ 校時] ◎授業クラス [2年 組 : 生徒数 名] ◎実施場所 [2年 組 教室]

学習の展開 (内容、活動)	授業の手だて・工夫 (指導上の留意点)			授業の振り返り	
	全 体	A 層	C 層	手だての有効性	〔手だて・工夫など〕
<p>本時の目標 基本的なコミュニケーション能力育成と第5文型の定着 Greeting→Roll call</p> <p>① Oral Composition 1 &amp; Check → Feedback 1 AD=additional explanation AD 1</p> <p>5 min.</p> <p>② Presentation (Theme Composition) → Comment AD 2</p> <p>5 min.</p> <p>③ Review Oral Composition 2 → Feedback 2 AD 2</p> <p>10 min.</p> <p>Review Today's Contents</p> <p>④ Explanation 1 By making use of what they've already learned (Understanding) → Feedback 3</p> <p>⑤ Practice Composition → Feedback 4 AD 3</p> <p>20 min.</p> <p>Explanation 2 To say what we regret to say</p> <p>⑥ Oral &amp; Written Practice → Preparation For the next class</p> <p>10min</p>	<p>①A～C層をバランスよく指名する。Checkで理解を全体のものにする。</p> <p>②導入に注意し、Active Presentationにつながる雰囲気を作る。</p> <p>④説明に終始しないよう、生徒に考えさせ、取り組ませることに重点を置く。</p> <p>⑤授業で学んだことが、定着できたか、フィードバックし、不十分な点は再度指導する。</p> <p>⑥声を出し、活動に参加しているか。観察・指導する。</p>	<p>①発音やリズム、自然さを評価する。</p> <p>②構文、表現の使い方に留意させる。</p> <p>④より、長い文に取り組むことができるよう工夫する。</p>	<p>①暗唱文を覚えていない場合は、考えさせて、答えを引き出す。</p> <p>③意欲的に発表しようとする姿勢を評価する。</p> <p>③前回の学習内容の理解度を掴む。</p> <p>④要点理解に集中させる。</p> <p>⑥ついてくることができるように、短い意味のまとまりで、暗唱練習を行う。</p>	<p>①全体でのRecitationになり、個人を氏名する時間がとれなかったが、理解を全体のものにすることができた。</p> <p>②Communication Skillの向上が課題。</p> <p>③概ね良好。</p> <p>④A層に配慮する時間的余裕がなかった。</p> <p>⑤要点はまとめて、指導したが、C層に理解を定着できたかどうかは怪しい。次回演習量を増やす。</p> <p>⑥1表現しか、できなかったが、概ね良好。</p>	<p>① 説明の工夫 1 2 3 4</p> <p>② 理解力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p>③ 意欲を高める工夫 1 2 3 4</p> <p>④ 表現力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p>⑤ 英作文力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p></p> <p>次の授業の改善</p> <p>Presentationの際の声の大きさ、読み方・伝え方(非言語要素も含む)についての指導が不十分。基本的コミュニケーション能力を育成する上で不可欠なので、次回のPresentationに向けて指導を強化する。</p> <p>第5文型の指導は時間が足りず、C層の演習量が不十分だったので、次回しっかり押さえ直したい。</p>

【授業シート】 2

◎授業者 [職名・氏名 教諭・ ] ◎実施日・校時 [平成21年11月 日 ( ) ・ 校時] ◎授業クラス [2年 組:生徒数 名] ◎実施場所 [2年 組 ]

学習の展開 (内容、活動)	授業の手だて・工夫 (指導上の留意点)			授業の振り返り	
<p>本時の目標 使役動詞、知覚動詞の構文と第5文型の定着</p> <p>Greeting→Roll call</p> <p>① Oral Composition 1 &amp; Check → Feedback 1 AD=additional explanation AD 1</p> <p>7 min.</p> <p>② Review Oral Composition 2 → Feedback 2 AD 2</p> <p>8 min.</p> <p>Review Today's Contents</p> <p>③ Explanation 1 By making use of what they've already learned (Understanding) → Feedback 3</p> <p>④ Practice Composition (p.43) → Feedback 4 AD 3</p> <p>30 min.</p> <p>⑤ Preparation For the next class → Homework Express Yourself</p> <p>5 min.</p>	全 体	A 層	C 層	手だての有効性	〔手だて・工夫など〕
	<p>①Oral Practice と Check で理解を全体のものにする。</p> <p>②目的語を説明する文の理解が定着したかを確認し、必要な補足説明をする。</p> <p>③使役動詞の構文は-ingではなく、原形を用いること、get の場合は to 不定詞を用いることを徹底させる。</p> <p>④授業で学んだことが、定着できたか、フィードバックし、不十分な点は再度指導する。</p> <p>⑤英文の骨格を作る、SOCの作り方を身につける重要なLessonになることを理解させる。予習の徹底を図る。</p> <p>⑥「いいにくいことを伝える表現」「交換してもらいたい」等、既習事項をうまく使うよう指導する。</p>	<p>①発音やリズム、自然さを評価する。</p> <p>②より長い文に取り組むことができるようにする。</p> <p>③Oral Composition で理解度を確認する。</p> <p>④できるだけ、自力で文を作らせる。答えをすぐ与えず、考えさせる。</p>	<p>①机間巡視で、理解度を確認、個別に指導する。</p> <p>②前回の学習内容の理解度を掴む。基本本文の演習量を増やす。</p> <p>③しっかりと、ノートをとらせ、理解を確認する。</p> <p>④Cの英作文は文の骨格を作る力を伸ばすことを主眼に指導する。</p>	<p>①概ね良好。</p> <p>②第5文型の理解を徹底させることができた。</p> <p>③概ね良好。</p> <p>④即答、或いは短時間で英文を作る力を向上させる工夫が必要。</p> <p>⑤概ね良好。</p> <p>⑥概ね良好。</p>	<p>① 説明の工夫 1 2 3 4</p> <p>② 理解力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p>③ 意欲を高める工夫 1 2 3 4</p> <p>④ 表現力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p>⑤ 英作文力をつける工夫 1 2 3 4</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">次の授業の改善</p> <p>使役動詞、知覚動詞の構文、第5文型の理解は、生徒にとって難しいことを認識し、繰り返し演習を行う必要がある。</p> <p>Oral Compositionの活動をさらに充実させ、即答できる力を養う。</p>